

Akatake Times

Vol. 23
(通算 第176号)

花粉症の人には辛い時期がやってきました。スギやヒノキは樹齢が30年以上になるとたくさんの雄花を生産するようになります。現在日本に植林されているスギやヒノキは90%以上が樹齢30年を超え、花粉生産がピークになっています。そのうえ、2018年春は例年より花粉飛散量が多いと予測されます。早い時期からの予防策が必要になりますが、マスクや手洗いだけでは症状を防ぐことができないそうです。アレルギー専用鼻炎薬を用意しておきましょう。



『ハッ場ダム、只今建設中』



群馬県吾妻郡長野原原町で建設中の「ハッ場(やんば)ダム」の見学ツアーに行ってきました。ツアーでは建設作業エリアの一部にも立ち入る事ができて、そこからの眺めは壮大でした。(画像左手が上流、右手が下流です)

1994年から始まった付帯工事は、途中政権交代による一時的な頓挫を経て、2014年度から本体工事が着工され今日に至ります。

完成するとダム上流に全長8kmの人造湖ができるそうです。

建設の是非はありますが、2020年の完成後は観れなくなる貴重な景観をこの目にしっかり焼き付けておきました。

撮影日時: 2017年11月15日

撮影と文: 技術部 プラントエンジニアリング室 小針さん

◆春を迎え、下期を迎える

「わが園に梅の花散るひさかたの天より雪の流れ来るかも(大伴旅人)」
 天から流れ来る雪のように梅の花が散る3月を迎えました。
 幾分暖かくなってきて、過ごしやすい良い季節を迎えました。
 この時期は、我が社は毎年、期の後半を迎えます。
 安全に十分気を配り、47期の目標に向かって頑張りましょう。



◆自ら変化を求めよう

過日、ある講演を聴講した折、とても印象に残った話がありました。
 それは、『**アインシュタインが言った言葉ですが、“愚か者とは、変化しない者である。今までと同じことを繰り返しながら、違う結果を望むなんて正気の沙汰じゃない”**』というものでした。
 実に言い得て妙です。人は、やらないほうが(変わらないほうが)楽であります。が、組織の中にあってそれは致命的な考えです。
 団体社会において、“誰かがやってくれる”から“自分がやらなくてもまあ、いいか”が、通用してくると、その組織が減びることは明白です。
 意識を変えず、やり方を変えないで業績が上がるなら、それは偶々でしかありえないでしょう。
 心理学者アブラハム・マズローの「欲求5段階説」が言うところの『自己実現』や、利他の精神である『自己超越』に向かって、日々変化を自ら求めていきたいものです。

◆スポットライトを向ける先は

2018年平昌オリンピックも終わり、多くの感動を味わいました。
 よくまあ、若い人たちが衆人の注目する晴れの舞台で臆することもなく(そう見える)技術を披露できるものだと感動します。
 考えてみれば、十代から二十代の若い方々が日本を代表してオリンピックに参加するのだから“凄い”の一語に尽きます。
 選手が頑張る姿をテレビで見て何度涙腺が緩んだことでしょう。
 そのたびに、私の感性もまだまだ廃れていないと妙に納得するわけです。
 メダルを獲得し脚光を浴びる選手だけでなく、目立たなくても努力した選手にも焦点を当て、目標に向かって頑張った姿も紹介してもらいたいと思います。
 その選手たちこそ、より美しい気がするからです。



◆故 三輪茂雄先生の書より・・・「粉体という言葉」

広辞苑は1955年に初版が刊行され、10年ぶりの改訂新版となる第七版が2018年1月12日に発売されました。「粉体」という用語が初めて収録されています。粉体の認知度が低いとお嘆きの諸氏には、たった2行の解説でも喜んでおられるかもしれません。
 我々業界の者は、「粉体」は当たり前で日常使っていますが、いつごろから使い始めたのでしょうか。
 故三輪茂雄先生が書かれた記事の続編ということで紹介します。(前号では、「せせなぎ」を紹介)

『**粉と粒はどう違うか、難しい定義や規則があるわけではないが、肉眼で粒々が見えれば粒、粒々が見えず正体が良くわからない、ポヤッとノッペリしているのを粉だという。その点、日本の漢字は立派だ。粒は米が立つと書く。粉は米を分けると書く。そのとおりだ。そこで工学の世界では、粉と粒をまとめて粉粒体という。粉粒体工学という表現では面倒くさいので簡単に粉体工学ということが多い。大学で看板に粉体工学研究室と書いたのは、同志社大学が日本初だった(1966年)。粉のことをわざわざ体をつけ加える訳はどうか。物理学では物質に液体・固体・気体の三態があるが、それにもう一つ粉体を付け加える必要があるからだ。そう言い出したのは、科学随筆で著名な昭和初期の物理学者 寺田寅彦先生であった。<<要するに此等の問題の基礎には“粉”といふ特殊な物の特性に関する知識が重大な与件として要求されるにも拘らず、其れが殆ど全く欠乏して居る。さうして唯現象の片側に過ぎない流體だけの運動をいくら論じて見ても完全な解釈がつきさうにも思はれない。粉状物質の堆積は、瓦斯でも、液でも、弾性體でもない別種なものであって、これに対して粉體(体)力学があるべき筈である。(1933年)>>』**



「粉」は太古から存在するのに、「粉体」という言葉は生まれて間もない。大変興味深いですね。
 今回はこの辺で。
 ご安全に！

代表取締役社長 赤堀 肇紀



—column—

「ムダ」、「ムラ」、「ムリ」 語尾をつなげて読むと…



当社の行動指針の3つ目に「ムダ、ムラ、ムリをなくし、原価意識に徹しよう」とありますが、「ムダ」、「ムラ」、「ムリ」が意図的にこの順番になっているのはご存知ですか？この順番で語尾をつなげて読むと「ダラリ」となり、覚え易さが一気に上がるからです。では、ダラリとした仕事のやり方を撲滅するためには、どうやって問題点を見つければ良いのでしょうか？ その切り口として身に付けるべきが『**だらりの法則**』です。法則とは銘打っていますが、「ムダ」、「ムラ」、「ムリ」のそれぞれについて、よくある事例を頭に入れておき、その視点にて周りを見渡すことで問題点を抽出しやすくしようというものです。下記に、その事例を挙げてみます。

【ムダ】

- 歩くムダ : 手の届く範囲に仕事に必要なものを揃えておけば、歩く時間を減らせます。
- 運ぶムダ : 動線を工夫し、運ぶ距離・時間が最小化できれば、作業効率は高まります。
- やり直しのムダ : 仕事のやり直しは非生産的。事前に十分な確認・段取りをしてから取り掛かりましょう。
- 監視のムダ : 体制作りやスキルアップにて、監視・チェックを必要としない状態にできませんか？
- 待つムダ : 流れた時間は帰ってきません。前後工程間の認識を統一し、手待ちを無くしましょう。
- 探すムダ : このムダを無くすために、当社は5Sに力を入れているといっても過言ではないでしょうね。
- 打合せのムダ : 議題がないのに定例会を行ったり、主旨が曖昧なのに打合せを進めるのは無駄です。

【ムラ】

- やり方のムラ : 人によってやり方が違ってはうまくありません。標準化ができないか検討しましょう。
- 忙しさのムラ : 年度末に製作が集中する、同部署内で特定の人だけ忙しいなどは、なるべく平均化！
- 気分のムラ : その日の気分で判断基準が変わったり、作業スピードが遅くなったりすることはNG。
- 成果のムラ : 仕事の仕上がり品質にムラがあっては、安心して仕事を任せられないですね？

【ムリ】

- ムリな計画 : 達成するのが不可能では計画する意味がありません。計画時に十分な調整をしましょう。
- ムリな納期 : 同様に、引き受けたけど納期遅れを出してしまえば、お客様に不信感を与えてしまいます。
- ムリな労働 : 仕事が偏り体に無理を掛け続けると、いずれ能率が落ち、最悪は体を壊してしまいます。
- ムリな値下げ : 過剰な値下げをして注文を取っても、悪循環に陥ることが往々にしてありますね。
- ムリな分担 : 役割分担に無理があつたり、専門外の仕事を受けたりするのは、非効率です。
- ムリな重量 : 力の要る作業や重い荷物を持つことは、体に負担を掛けます。要改善のポイントです。
- ムリな姿勢 : 無理な姿勢での作業は、安全、労働衛生の面で好ましくありません。

いかがでしょうか？

調べてみると色々な「ムダ」、「ムラ」、「ムリ」が出てきましたが、当社に当てはまりそうなものをピックアップしてみました。

これらのダラリを徹底的に無くすことで、成果につながる時間を増やすことができ、真の意味で原価意識に徹することができます。

「時間を無駄にするな。有益なことに常に従事せよ。
あらゆる不必要な行動をやめよ。」

アメリカ合衆国国務長官 ヘンリー・キッシンジャー